

特集

親鸞聖人750回大遠忌に「仏壮」を考える

任期の満了を控え、連盟正副理事長と理事並びに活動推進講師に「仏教壮年会の課題と問題点」について話し合ってもらいました。

理事
2011
1.29
座談会

「仏教壮年会」組織拡充のために：

—— 仏壮結成の課題を克服する ——

二〇一一年(平成二十三年)三月三十一日をもって任期満了で交代する理事さんの中、一つの区切りとして今回は「仏壮の組織拡充」と「次代への相続」をテーマに、連盟講師の先生方にも加わっていただき、座談会形式で話し合っていました。

どうしたら
単位会結成を促進できるか？

広報委員会 「連盟」が発足して既に満三年になりますが、「寺院仏壮」を中心とした単位会結成は、必ずしも期待通りの成果を上げてきたとは言い難いと思います。そこで、「単位会結成」には各寺院の住職方のお力に負うところも大きいと思うのですが「単位会結成の促進」についてご意見を伺いたいと思います。



中村理事 仏壮の会員数は全国的に減少してきているので、まず、それを止めることが大事だと思います。



竹内理事 仏壮結成の際に「お寺が開かれてない」「住職にその気がない」という声をよく



三嶋副理事長 現状の寺院活動では、ご法義繁盛のために活動していると思える寺は案外少ないんじゃないでしょうか。お寺がご法義伝道の役割を失っていくと、家庭の中にお念仏も浸透していかなくなりそうです。家庭への門戸が閉ざされたような、こんな状況で仏壮活動も活



小林講師 住職、僧侶にお念仏を伝えたい、弘めたいという熱心さに欠けるのは事実です。しかし先ほど竹内さんがおっしゃるように、それを活性化が進まない言い訳にはしてもらいたくないのです。



高橋講師 そうですね。ともにご法義をよろこべる場として、更に寺院が開放される必要があります。



藤井講師 寺院関係者も危機感を持って伝道活動を推進していつてもらわなければいけない。今後は、住職方の努力に加えて若い僧侶にも大いに頑張ってもらえることも大事ですね。



松山理事 ある教区の「単位会結成に向けた研修会」に参加したら、教区連盟理事や教務所長が教区内を回って「仏壮の必要性や結成への呼びかけ」をしているということ聞き、注目しました。

我々自身もご法義を拡げてゆく役割を自覚しなければならぬですね。



杉本副理事長 その通り。連盟役員が「会員増強」「単位会結成促進」の願いを強く持つて自分が動き、足を運ぶという活動実践が必要ですよ。



平井理事 私もそう思います。仏壮連盟の理事の「本気度」とか「熱意」が何といつても「単位会結成の原動力」ですよ。今は仏壮だけでなく各教化団体とも悩みを共有し、ともに連携しながら組織の拡充に取り組む姿勢が求められているのではないですか。



小西理事 それには、お寺に来てもらい、やがて「仏教壮年会」を作って活動していくには小グループのリーダーが生まれるようなムードにしていくことだと思う。お寺で



幸田理事長 皆さんのご意見は一つ一つ大切なこと。焦らずに一步一步、「単位会結成に向けた研修会」や「組仏壮結成に向けた取り組み」を続けてゆくことだね。



牧田理事 小西さんが言うようなグループリーダーも大切だけれど、連盟として「心をつつような事業の展開」も考えていかなければ住職方や門信徒に仏壮活動が十分に理解されないと思います。同時に、単位会未結成の寺院へも仏壮としての広報活動を浸透させなければならぬ。

お念仏や仏壮をどのように
次代に相続させてゆくか？

広報委員会 では続いて、次代へ仏壮・お念仏の相続をいかに考えていくかについて伺いたいと思います。

幸田理事長 住職の中には「うちの門徒は親から子への念仏相続がされているから特別に手を加える必要なし」と考えている方も多いのではないのでしょうか。



平井理事 身内の「死」というものが自宅から病院・施設へと変わってきている。子供たちは「死」を身近に感じなくなってきた。「無縁社会化」が進行しているように感じます。

仏教が「葬式仏教」化してゆく中で、自分をお育ていただいたお念仏のよろこびを報恩感謝をいかに伝えていくか、ということが我々仏壮に問われていると思います。

松山理事 他方では、いつまでも我々が中心としてやるばかりじゃなくて、若い人たち(僧侶も含めて)にバトンタッチしていく意識も必要じゃないでしょうか。